



田辺 智也 ▶ 西中卒

20歳を迎え、いままで実感が湧かなかった大人になることの責任感がより一層増しました。

今みんな何してるのかな～なんて

考えていたらもう20歳。

社会人、大学生、専門学生などみんなそれぞれのところで頑張っているに違いないと思います。

自分もあつという間に、中学を卒業し、高校を卒業し、地元の企業に勤め、20歳になっていました。

20歳になり、社会的に大人と呼ばれる年齢になりました。社会の厳しさを痛感し、今まで自分は甘えていたんだという気持ちになっています。

自分がいま一番大切にしている言葉は、「若者よ、失敗を恐れるな。大いに悩み、大いに葛藤せよ。そして大いに泣け。しかし一晩たったら顔を上げて、まず行動せよ。失敗は成長の源。苦に立ち向い前進せよ」です。

仕事でのミスやプレッシャーに追われたり、怒られたりすると必ず落ち込みます。ゆっくり休みたい、泣きたいこと時など山ほどあります。

しかし、自分はもう子供ではない。大人なんだからと自分に言い聞かせ、失敗を基に新たな視点で物事を考え、他人の気持ちにたつて物事を考える。とにかく前進することを忘れず、必ずそのとき経験が役立つ時があると信じ精進していきます。

子供の頃思い描いていた「大人」へはまだまだだなど実感しています。

辛いことでも、嫌なことでも、我慢をし、逃げなければ、人の悲しみや苦しみをわかる人になれると信じて人生を歩んでいきたいです。



後藤 結萌 ▶ 東中卒

本日、無事に二十歳の集いを開催できたことを大変嬉しく思うと同時に、ここまで育ててくれた母や家族、親戚のかた、たくさんのかたに感謝の気持ちでいっぱいです。

今や五類感染症に引き下げられた新型コロナウイルス感染症が中学校卒業間際に蔓延し、全国一斉臨時休業となってしまったことは、今でも鮮明に覚えています。卒業までの約一カ月間、登校することができず、友達と会うことが出来ませんでした。さらに、高校入試を控えていた私自身は、とても不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、二十歳になった今、当時を振り返ってみると、「大人になるための人生初めての試練」であったのではないかと思います。

私は現在、小学生の時から夢であった理学療法士になるため勉学に励んでいます。小学生の時に母が患った病気がきっかけで目指しました。小学校のときから憧れている理学療法士の姿は、「どの患者様にも勇気や希望を与えられるような理学療法士」です。しかし、現実には思うようには行かず、憧れていた姿にはまだまだなれていないと実感しています。卒業までに少しでも憧れていた姿に近づけるよう勉学に励んでいます。

今過ごしている中で、「理不尽」と感じる、「挫折」しそうなことは多々ありますが、どんな時でも感謝をすることを忘れず、自分の人生を切り開いていきたいと思っています。



村松 蓮斗 ▶ 緑ヶ丘中卒

小学生の頃、家に集まってWiiパーティーをしたり、外でデュエマをしたり、サッカーをしたりという日々が数十年も前に思うほど

久しぶりに思える歳になりました。その時にははるか遠くに感じる20歳でしたが、いざなってみるとあつという間で、当時描いていたものとは違うなという感じがします。

大人は楽で自由という印象を持っていた私ですが、こうして学生を経験していると当時の印象とは裏腹にとっても大変さを感じています。

人生20歳が体感的には半分と言われていたのですがこんなにあつという間に半分が終わってしまったと考えると少し寂しさもあります。ですが、20歳になって考えると、私の面倒を見てくれた両親はもちろん、保育園の先生、学校の先生、関わってくれた友達、兄弟、色々な人の支えや関係を経て、今の自分が出来上がっているということ強く実感します。

このように当時とは変わった考えを感じることも多々ありますが、昔の友達と会って遊んだりすると、昔ながらの会話やノリ、馴染みのある顔、声などはとても温かいものを感じ、変わらいなあと感じます。変わるものはもちろんあると思いますが、心の中心にあるこういった感情は変わることはないし、忘れることもない大切なものだと思います。

私は地元が好きです！いつでも恥じなく帰ってこられるよう頑張ります！

モットーは「人生一度きり！」これからもよろしくお願いします！



木下 陽生 ▶ 高陵中卒

いよいよ今年度、私達は20歳を迎えました。皆さんが子供の頃想像していた20歳はどんなものだった

でしょうか？親や学校の先生、地域の方など周りに沢山いた大人を見て、自分はどんな大人になるのだろうと想像するのは楽しかったですね。自分も早く車を運転して旅行に行きたい。友達とお酒を飲んで笑い合いたい。大人になったらやりたいことを数えだしたらキリがありませんでした。

私は自分が実際大人になってから、自分が想像していたよりも遥かに大人は大変で、楽しいものであることを学び、その中でも「責任」の重さが子供の頃とは段違いに大変だと感じます。何でもできるからこそ着いて回る責任の重さに、大人になったことを実感する日々です。私達は「大人」の先輩方に支えられてここまで大きくなる事が出来ました。その事に感謝しています。大人として生きていく中で自分の未熟さや至らなさを痛感する日々ですが、大人の一員になったからには未熟なりに頑張って生きていこうと思います。



宮澤 拓朗 ▶ 竜東中卒

二十歳を迎えた今、胸の中には期待と責任感、そして少しの不安が渦巻いています。子供の頃、二十歳の自分を想像して「きっと大人っぽくて完璧なのだろう」と思っていたのですが、現実とはちょっと違いました。自分の部屋を片付けられないまま、気づけば大人の仲間入りです。大人になるということは、選挙権を持つことやお酒を飲めるようになることだけではなく、自分の行動に責任を持つことだと学びました。例えば、母に「今日は自分で夕飯を作る！」と宣言して結局カップラーメンをすする自分を見て、「まだまだ修行が必要な」と実感しています。一方で、二十歳という年齢は可能性にあふれた時期でもあります。「将来の夢は？」と聞かれて少し焦りつつも、「失敗したらまたやり直せばいい」と少し楽天的になれるのも今の特権かもしれません。この先、大人としての責任を実感しながらも、少しの遊び心や柔軟さを忘れずに生きていきたいと思っています。それにしても、二十歳の集いで着るスーツを選んでみると、「こんな私が大人の仲間入りしていいの？」と笑ってしまいそうになります。でもきっと、私だけでなくみんなが少しずつ「大人になりきれない大人」からスタートするのでしょう。それなら安心です。これからの人生、真面目に、でも少し面白く。「あの時二十歳だった自分、頑張っていたな」と笑える日が来るように、一步一步進んでいこうと思います。



尾曾 亮太 ▶ 緑ヶ丘中卒

私たちは今年度20歳を迎え、大人の階段を一段登りました。私自身は20歳になった実感はあまりなく、まだ10代じゃないかと思うときがあります。あの頃は学校で授業を受けたり、部活に日々励みながら仲間と切磋琢磨し合い、休みの日には友達と遊んだり、家族と出かけたりしていました。今でも不意にあの頃の事を思い出したりします。現在の私たちは就職や進学をしています。私は今、地元の企業に就職をして働いています。社会人になり感じたことは、一つ一つの行動が責任重大ということです。そのため、自分の言動や行動に気を付けるようにしています。10代の頃は自分達の親がどれだけ凄いかは分かりませんでした。20歳になった今その凄さが少しずつ分かるようになりました。今の私たちがいるのは親や地域の方々のサポートがあったからだと思います。これまで支えてもらった感謝を忘れずに、次は私たちが1人でも多くの人の支えになり、立派な大人になれるように頑張りたいと思います。最後に、地域のみなさんをはじめ、関係者の方々、今回私たち新成人のために二十歳の集いを計画してくださりありがとうございました。私たちはこれからも一歩ずつ大人になっていくので、温かい目で見守っててください。



浦野 遥香 ▶ 竜峡中卒

20歳になった今、人生の大きな節目を迎えたことを実感しています。これまでは未成年として守られる立場にいましたが、これからは一人の大人として責任を持つべき場面が増えていくと感じています。同時に、自分の選択肢が広がり、自由に挑戦できるチャンスが増えたことにワクワクしています。今は県外の大学へ進学しています。地元に戻ってくるとやはり昔から住んでいたということもあって、安心感があり、やはり長野県は素晴らしい県だなと思います。大学卒業後は就職することで本格的に社会に出ることになります。20歳になるまでの20年間を支えてくださり、成長させてくれた多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。家族、友人、先生方、すべての出会いが私の人生を豊かにしてくれました。今までお世話になった方々に感謝の気持ちを忘れずに、今よりも成長して立派な大人になれるように頑張ります。未熟な部分も多いですが、これからの人生を切り開くスタートラインに立った今、希望と決意をもって前に進んでいこうと思います。



松澤 凌真 ▶ 竜東中卒

今までを振り返ると、20年間で本当に色々なことがありました。今年成人式を迎える皆さんは、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、当たり前だった日常が突然失われるという貴重な経験をしたのではないのでしょうか。学校生活や日常が制限され、不安や孤独を感じた人も多かったと思います。しかし、そんな状況だからこそ、親の存在の大切さや「普通」であることのありがたさに気づく機会にもなったと感じています。コロナ禍では、家に帰ると「手を洗え」だの「うがいをしろ」だの、学校に行くときには「マスクを忘れるな」だのと親に口うるさく言われたことを覚えています。正直私はうざいと感じることもありましたが、振り返るとそれは私たちの健康を守るための行動だったと気づきました。感染予防を徹底していなければ、今の「普通」の生活は戻ってこなかったかもしれません。こうして日常を取り戻せたのは、感染を心配し守ってくれた親のおかげだと思います。親には心から感謝し、その思いを忘れずにこれからも生きていきたいと思っています。今年度は大地震や異常気象など、再び「普通」の生活が脅かされる出来事が相次ぎました。だからこそ、今度は私たちが「普通」の生活を守るために何ができるかを考え、行動していくことが大切だと考えています。



代田 望 ▶ 竜峡中卒

今まで過ごしてきた20年間を振り返ってみると、色んな人に助けられ、支えられてきた人生だったなと感じます。人間関係で上手くいかなかったこと、勉強や部活で上手くいかなかったことなど、沢山の経験をして、その度に側にいてくれた多くの人の存在が励みになっていました。本当に感謝しています。特に家族には本当に支えられてきました。家族がいなかったら、今こうして一人暮らしを頑張っていないだろうし、家族がいたから辛い時期を乗り越えて、今幸せでいられます。家族が当たり前でいることが私の心の支えです。

今は大学で看護を学んでいます。つい先日重度の障がいをもって生まれてきた赤ちゃんと、その家族のお話をお聴きする機会がありました。その講義を通して今自分が母と共に生きていられること、家族皆が揃って家で過ごせていることが本当にありがたいことだと改めて感じました。

当たり前のことを大切にして、今生きていられることに感謝して、これからも沢山の人と関わりながら成長していきたいです。これからは支えてもらうだけでなく、私が支えられるように、力になれるように、誰かを励ませるような存在になれるように努力していきます。



沖田翔真 ▶ 緑ヶ丘中卒

二十歳になった今、人生の新たなステージに立った実感があります。子供から大人へと移行するこの瞬間は、自由と責任が同時に伴う特別な時期です。これまでの十代は、自己を模索し、周囲の影響を受けながら成長してきましたが、二十歳を迎えることで、自分自身の選択がより重要になってきたと感じます。

この年齢になると、社会的な期待も高まります。自分の将来像について考える機会が増え、周囲の人々との関係も変化していくことを実感しています。友人との関係はもちろん、家族との絆も、より深まる一方で、時には意見の相違や価値観の違いに直面することもあります。これらの経験を通じて、自分の考えをしっかりと持ち、他者とのコミュニケーションを大切にすることが求められています。

また、二十歳は自分の趣味や興味を追求する良い機会でもあります。新しいことに挑戦し、自分の可能性を広げることができる年齢です。旅行やボランティア活動、ギャンブルや趣味のクラブに参加することで、多様な人々と出会い、視野を広げることができるのは、この年齢ならではの特権です。

最後に、二十歳になったことで、未来への期待と不安が入り混じっています。自分の人生をどのように築いていくのか、どんな選択をするのか、これからの道のりは自分次第です。この新たな旅立ちを大切に、自分自身を成長させていきたいと思えます。二十歳という節目を迎え、これからの人生に対する希望と責任を胸に、前向きに歩いていきたいです。



高瀬なゆ ▶ 旭ヶ丘中卒

私が子どもだったとき、「大人」というのは凄く遠い存在で「自立した一人の人」というイメージでした。意外にもその線引きが曖昧だということを感じたのは自身が成人してからのことでした。

いざ二十歳の誕生日を迎えて、自分が思っているより二十歳はまだまだ子供で自立できていない部分がとても多いと感じます。そんな自分を今まで支えてくださったすべての方々や、恵まれた環境で過ごすことができていることに対して感謝の気持ちでいっぱいです。幸せ者だなどつくづく思います。

この20年間、たくさんの人との出会いや別れがありました。辛い時や大変な時に1番そばで支えてくれた家族、お腹を抱えて笑ったり、時には辛いことも一緒に乗り越えてくれた大好きな友達、私の人生の糧となることを教えていただいた先生方など、様々な人のおかげで今の自分が存在しているのだと強く感じます。これからはそんな大切な人たちに少しずつ恩返しをしていきたいです。

二十歳を迎えたということは、なんでも自分の行動に責任をとって行動しなければなりません。

当たり前を当たり前だと捉えず、これから先、出会う沢山のご縁に感謝しながら、自分らしく人生を歩いていきたいです。また、社会人としての自覚と責任を持って日々精進していきたいと思えます。



坂巻佐南 ▶ 竜峡中卒

20歳になってまず感じたのは、大人になってしまったんだなあという寂しさでした。法律上では2年前に成人していたのに、やはり2歳の節目というのは大きいものだとしみじみ思います。20歳になったら、やっとお酒とたばこが解禁…あれ？これだけ？他にもギャンブルができる、養子を迎えられる、大型・中型自動車運転免許が取れる…思いのほか少ないですね。私が思い浮かべていた「自立している」「自分で考えて動ける」「かっこよく働いている」大人には、20歳になったら自然と進化するのではなくて、自分の力でしか成れないものだと感じました。

おおよそ2年前、飯田を離れて一人暮らしを始めました。都会はすごいです。5分毎にバスや電車が来て、人もお店もたくさんあって、どこにでも5Gの電波が届いて、Uberが来てくれる。でも、だから都会が良いのかと言われると私はそうは思いません。時々帰省して飯田の空気に触れると、やっぱり私はここが好きだと感じます。みんながみんなを知っていることは窮屈じゃないかと友達に聞かれました。確かに飯田は時々窮屈で、時々退屈です。それから、果物がおいしくて、自然が豊かで、人があたたかくて、帰りたと思う場所です。この飯田の地で、すてきな人たちに囲まれながら、人生の節目を同級生皆で迎えられることを誇りに思います。



竹沢 柚 ▶ 鼎中卒

私は、20歳を迎え一番に感じたことは「感謝」です。これまでの人生を振り返ると、今の私がいるのは、間違いなく家族はもちろん、友人、小中高の恩師のおかげです。

18年間地元で過ごし、大学に進学するため地元を離れました。一人暮らしをして、今まで当たり前だった生活が当たり前じゃないんだとすごく感じ、改めて家族の有難みを身を持って感じました。

小・中学校を悔いなく過ごすことが出来たのは、友人がいたからです。楽しい時は一緒に笑い、苦しい時はお互い話を聞き合い不安を和らげる学生生活でした。友人がそばにいてくれたから刺激を貰い、前に進むことができました。

中学卒業時に現在の将来像は、全く考えていませんでした。ですが、中学の進路相談で進められた高校に進学しなければ、行かなかった道ではないかと振り返りふと感じました。もし、中学の担任の先生が女子高を進めなければ将来像にたどり着けなかったと思うと「奇跡」だなと感じました。

20歳を迎え、決して自分だけの力だけでなく周りの方々のおかげで今の私があります。これからは、その方々に恩返しをできるように成長し、10代の頃に思い描いた大人に近づけるよう日々精進していこうと思います。



石原 沙耶 ▶ 旭ヶ丘中卒

小学生の頃は早く大人になりたいと言っていたのに、それがつい最近のことのように感じるくらい、この20年間はあっという間でした。こうして20歳という節目を迎えられたのは育ててくれた両親、家族、学校で出会った先生や友達など、多くの人の支えがあったからだと思います。この思い出たくさん鮮やかな20年間は私にとって宝物です。ありがとうございます。

20歳の自分は想像していたようなカッコいい大人ではありませんでした。わからないことはたくさんあるし、私一人では乗り越えられないような壁にくつもぶつかっています。そのたび周囲の力を借りて、どうにか乗り越えようと頑張っています。まだまだ理想の大人には程遠いのかもかもしれませんが、これからも一歩ずつたくさんの経験を積み重ねて前に進んでいきたいと思っています。

私は今東京の大学に通い、先生になるための勉強をしています。学ぶべきことの多さやこどもと関わることの難しさなどに圧倒され、大変だと思うことも多々ありますが、とても充実しています。今まで、そして今私を支えてくださっている方々がいるように、今度は私が立派な教員になり、支える側として活躍することができるよう、頑張ります。



村澤 樹 ▶ 遠山中卒

中学校卒業から、早くも4年がたち二十歳という節目を迎えました。今では多くの人が飯田市を離れています。友人たちとこうして再会し二十歳を迎える事ができて、とてもうれしく思います。

思い返せば、この二十一年間は長いようで短い道でした。当時の事を振り返ると、サッカー、人形劇、八の字飛びなど、地域の方に支えられて多くの活動をしてきました。その中で友人達と喜びを分かち合い、時には本気でぶつかりあいながら成長してきた日々は今の私たちの大きな糧となっています。中学校卒業時には、新型コロナウイルスによって、日常が当たり前でないことも学びました。そのような環境の中でも私たちの思い出となるような経験をする事が出来たのは地域の方々や、家族の支えのおかげであり、感謝してもしきれません。

私は現在県外の大学に通い、鍼灸師を目指し勉強に励んでいます。一人で生活をしながら学業やアルバイトをする毎日は大変でもありますが、充実した日々を送ることができています。自分で決めた進路に責任を持ち、今まで関わってくださった方、地域に少しでも恩返し出来るよう頑張ります。なにより、二十一年間を通して一番近くで支えてくれたのは両親への感謝を忘れず親孝行していきたいと思っています。



福沢 太洋 ▶ 高陵中卒

気づけば私も20歳を迎え、大人への第一歩を踏み出す時期になりました。これまで支えてくれた両親や友人、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

私は広島で行動科学を専攻しています。近年、新型コロナウイルスの影響で私たちの生活は大きく変わりましたが、オンライン授業も少なくなり、徐々に日常が戻りつつあります。同じ目標を持つ仲間たちと議論を深め、刺激を受けながら日々勉強に励んでいます。

また、20歳という節目を迎え自立の難しさを痛感しています。成人には生活面の自立はもちろん、自分自身の決定や行動に対する責任が求められます。大人になるということは、ただ年齢を重ねることではなく、自分自身と向き合い、社会の一員として責任を果たしていくことだと思います。この責任は自覚するだけではなく、立ち振る舞いで現れる部分だと思います。しかしまだまだ未熟な部分も多く、日々試行錯誤の毎日です。

最後に改めて、両親や周りの友人たち、先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、まずは大学での学びを深め、行動科学の知識を活かして社会に貢献できるような仕事に就くことが目標です。また、自己成長のために新しいことに挑戦し続け、常に学び続ける姿勢を持ち続けたいです。これからも精一杯努力していきたいと思っています。